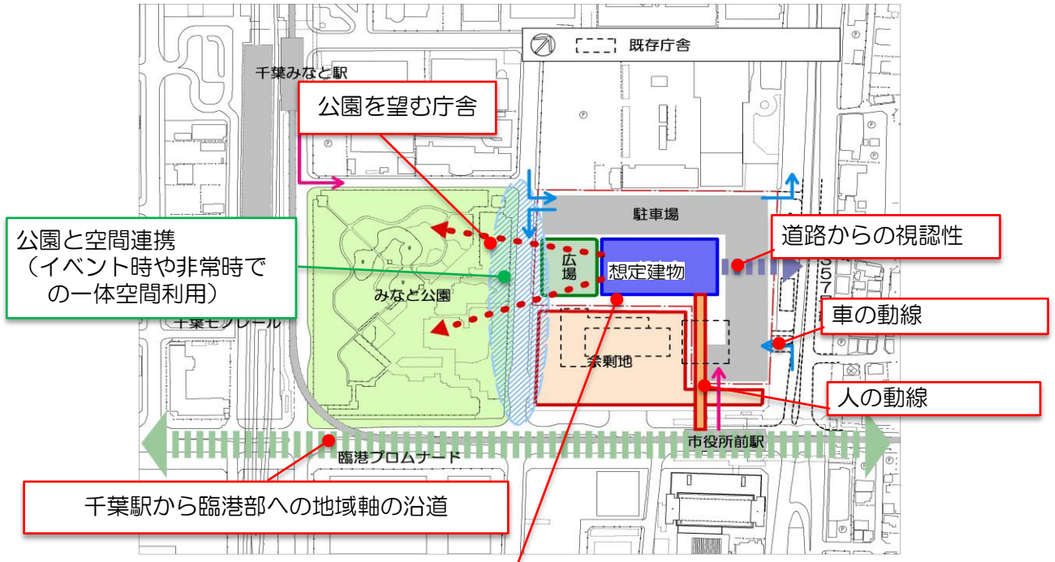
想定建物の配置方針についての検討（論点整理表）

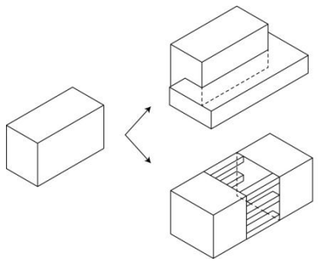
資料2－2

・配置場所１及び３のメリット・デメリットを整理し、建物の配置方針を検討します。

配置場所１

配置イメージ





自由度の高い建築計画

・市民利用が想定される低層部を大きくした計画や、建物中央部に大きな吹き抜け計画等、様々な建築計画の可能性がある。

メリット

・施工しやすく庁舎としての建築計画の自由度が高い。
（自由な平面計画、短い室内動線、共用部の集約化）
・外観上も建築計画の自由度が高い。
（広がりのある低層部、中央部に吹き抜けなど）

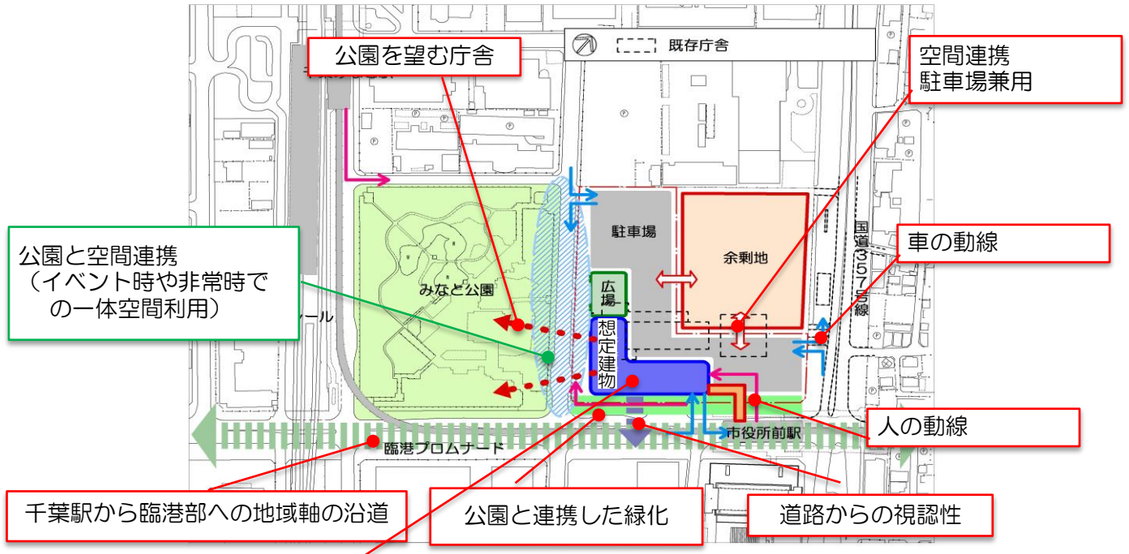
＜キーワード＞
・施工性
・建築計画

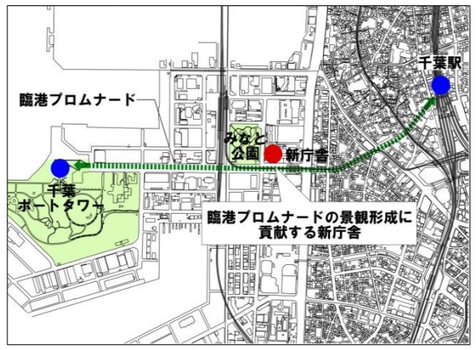
デメリット

・モノレール駅から遠く、通常時・非常時共に人のアクセスに難あり。
・建物が臨港プロムナード側に顔が出せず、都市計画的な貢献性に乏しい。
・国道側に、大きく余剰地が確保できないため、民間活用の可能性が低い。

・アクセス
・プロムナード
・余剰地

配置場所３





広域的な視点

・臨港プロムナードの景観形成として、千葉ポートタワーへとつながる歩行者空間の整備、みなと公園と連携した緑化などの可能性がある。

メリット

・モノレール駅に近く、アクセスがよい。
・想定建物のプロムナード側への貢献が可能。
・国道側に、大きく余剰地が確保できため、民間活用の可能性が高い。

＜キーワード＞
・アクセス
・プロムナード
・余剰地

デメリット

・新庁舎工事着手前の附帯工事が発生する。
・建物の建築計画の自由度が低い。
（片コアのため有効率が悪い、外装面積が大きくなる。）

・施工性
・建築計画

総評